

カタクリの会 第306回 奥羽自然観察会 資料より ～新緑のブナの森 ブナの森 怪しく香り銀竜草～

真昼施業指標林について

施業指標林は湯田営林署（当時）が、平成元年に指定したもので、ブナ天然2次林となっています。

標高380メートル、面積36.48ヘクタールあります。

昭和6（1931）年母樹を残し、皆伐採し、昭和47（1972）年に間伐しました。

ブナ林について

日本のブナ林は、北海道の黒松内から鹿児島県の大隈半島まで広く分布しています。しかし人間による伐採と開発のため、分布は断続的なものになってしまいました。

太平洋側のブナと日本海側のブナでは、葉の大きさや硬さが異なるそうです。西和賀のブナ林は日本海側の要素を含んだブナ林ですから、太平洋側と比べて葉が比較的薄く大きいようです。また「根曲がり」という樹形が見られるのも日本海側の特長です。

ブナ林に生育する常緑樹には、ハイイヌガヤ・ヒメアオキ・ハイイヌツゲ・エゾユズリハなどがありますが、これらの木はほふくした小低木で、雪に保護されることによって生育しています。

指標林内は森林管理署が管理していますので、原生林とはまた違った雰囲気のある森です。どう違うか観察してみましょう。

ギャップ (gap 空き地)

大きな木が倒れてギャップ（空き地）が出来ています。

ギャップに生えてきた木を見ると、ホオノキ・タラノキ・キハダ・サワグルミ・ニワトコ・ミズキなどがあります。これらのタネは鳥の散布やネズミ等によって運ばれ、長い間土中で眠っていて、突然のギャップを待っています。

そしてギャップができると、その明るさや暖かさでぐんぐん成長し競争しながら、ギャップを埋めていくのです。

森は複雑で雑多な空間であるほど、様々な生き物たちを生み出しています。

ギンリョウソウ（銀竜草）

ギンリョウソウはユウレイタケとも呼ばれる、葉緑素を持たない真っ白な植物です。

生活に必要な栄養分は、何もかも菌根菌に依存していると考えられています。菌根は植物の根と菌類がつくる共生体です。

ギンリョウソウは菌根菌を介して、樹木から養分をもらっているのです。

またこの植物は光合成をしないため薄暗い場所でも咲いています。真っ白に咲くことで虫に目立ち、花粉を選んでもらっています。蜜の甘い香りもします。ぜひ嗅いでみてください。